

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1472602786
法人名	有限会社 良観
事業所名	グループホーム ぽっかぽか
訪問調査日	平成23年12月13日
評価確定日	平成24年2月21日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472602786	事業の開始年月日	平成17年4月1日
		指定年月日	平成17年4月1日
法人名	有限会社 良観		
事業所名	グループホーム ぽっかぽか		
所在地	(252-0246) 神奈川県相模原市中央区水郷田名 2-20-14		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成23年12月7日	評価結果 市町村受理日	平成24年5月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が自らの力を最大限活かせる様にする。
運営側 又は 家族の都合で、入居者の持っている能力を奪う事なく使って頂く事で、認知症の軽減・維持や運動能力の向上を目指す。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成23年12月13日	評価機関 評価決定日	平成24年2月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①経営者及び管理者にはグループホームに対する強い想いと理想があり、その実現を目指す夢が理念となって現わされている。「いかにも介護」という介護を廃し、特別なものを作らず、楽しく生活ができることを常に目指し、覇気の無い利用者がいないホームを目指している。覇気は一生懸命になれる目の前の目標があれば、一生懸命になり覇気が生まれる。目の前の目標は注意深く見ていれば分かることで、やりたいこと、マイブームを促し、それを楽しんでもらうように配慮している。普通の家庭生活と同じ生活体制の実現への強いこだわりがあり、その想いのご利用者さんやその家族にも十分伝わり、温かい生活環境を提供している。理念の周知は日常生活の中で、地域との連携は、普通の家の人が隣の人とお付き合いの中であくまで1つの家として地域と一緒に生きて行く基本姿勢が貫かれている。また、利用者が毎日の散歩で同じ人と合い、知人となっている。ここはJR相模原駅からバスで30分余、相模川の上流、江戸時代から水運で栄えた町で現在は相模原市内の住宅地としても発展しつつある、風光明媚で住みやすい町となっている。相模川護岸の桜並木は素晴らしい。

②地域密着とはホームから働きかけて達成するものではなく、外から自由に入って来られる体制から自然に生れて来るものと考えている。その通りに、玄関、門は開放し、ご利用者も常に外に出て交流し、自然な形で地域密着の体制が出来上がっている。地域密着や近隣の理解などと云うものは短時間で出来るものではなく、現在の体制が固まる迄に7年と云う時間は必要であると実感している。民生委員との共同での独居の方との交流、保育園イベントのリハーサルの見学、お返しに保育園の年長さんを招いた町内会館でのパーティー、ボランティア団体の応援(人形劇など)、犬・猫との共同生活等、楽しい日常生活が当たり前展開されている。

③介護計画については、「何が必要か」「何が認知症の進行を遅らせるか(最低限でも現状の維持が目標)」を考え、その為に職員の声を大切にし、利用者とのコミュニケーションを取りつつ、出来る可能性があれば、高い目標を掲げて取り組んでいる。現状を維持する為には寝たきりにさせないことであり、その為に体の各部を充分使うことをケアの根本としている。利用者も我々ワーカー個々のケアプランを作り、人を見て付き合っている。ワーカーもそのケアプランを充分意識し、毎日真剣に利用者に向き合うことが大切と考え、実行している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ぽっかぽか
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の会議、問題が起きた時、毎朝の引継ぎで共有し実践している。	経営者及び管理者にはグループホームに対する強い想いと理想があり、その実現を目指す夢が理念となって現わされている。特別なものを作らず、楽しく生活が出来ることを常に目指し、覇気の無い利用者がいないホームを目指している。利用者が楽しく過ごすことの実現が、経営的選択（経営方針、財務計画等）とイコールとなりうる運営を目指している。「なあなあにならない、利用者には楽をさせない、出来るか出来ないかはやらせてみないと分からない」をモットーに、ポジティブなケアを目指している。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩やイベント事での交流を行っている。又、施設を開放している為に地域の方々が自らホームに足を運んでくれている。	自治会には賛助会員として加入し、3、4月の決算会議には出席している。地域の盆踊り、的まち、どんど焼きなどの年中行事には参加している。保育園とは保育園イベントのリハーサルの見学、お返しに保育園の年長さんを招いた町内会館でのパーティーなど交流がある。ボランティア団体の応援（人形劇など）、犬・猫との共同生活など楽しい日常生活が当たり前展開されている。近所の方から季節の野菜が届けられたり、入居者の散歩時に花や野菜などを頂く交流も行なわれている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議、包括支援センターからの会議の参加により情報を発信している。又、近所を散歩中に相談を持ちかけられる事もあり、都度対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで行っており、参加者からの情報やホームとしての考え方など、実際にある話を議題にフリートークで行っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、入居者、ホーム長、取締役代表の参加でホームの現状の運営状況と、今後の運営に関する思いを告げて、質問、意見、提案などを受け、話し合を行ない参加者を通して地域へ発信している。また、地域情報や包括支援センターからの研修情報など頂き、運営に反映している。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて報告・連絡・相談を行い、担当者に把握してもらっている。	利用者の出身地の生活保護担当者と連絡を取り、入居者の支払いや、手続きを含めた法的解釈など諸所問題を相談し、教えを請う等、都度連絡を取って解決している。その他、研修などの連絡も受けて、スキルアップの為、職員が参加して市の窓口とは交流が行われている。県央地区のグループホームの集まりが2ヶ月に一回あり、参加している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のドア・門を常に開放しており、室内においても自由行動になっている。当ホームの基本となる考えである。	一般的な身体拘束は意地でもしないのが方針。拘束とは介護者の思い通りにすることであり、このホームの方針は利用者の思い通りにすることが基本であると常に職員に教育している。玄関のドア・門を常に開放しており、室内においても自由行動になっている。言葉の問題は、前提としてコミュニケーションがしっかりとれてさえいれば、またお互いに認め合えるならば、フレンドリーで良いと云っている。但し、ご利用者は年長者であるので、尊厳を持ち、子ども扱いほしくないことを徹底している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月1回の会議や必要に応じての話し合いをもっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	常に本人にとって何が必要かを考え、状況に応じた対応を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当ホームの考えを入居前に理解して頂き、その上で入居していただいている。又、家族とのコミュニケーションを密に取る事で不安や疑問を直ぐに連絡頂ける環境にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時の説明を十分に行い、都度発生する問題に対して迅速に行動出来る様にしている。	契約時に十分説明をし、発生した課題に対して迅速に反映出来る様努めている。利用者の意向は行動の動機を知ることや、日頃の要望を聞いて反映するようにしている。「利用者さん本位」についてはご家族の反対があっても曲げないポリシーを持ち、真の利用者さんのためのケアに徹している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や都度の意見書を職員側から出せる様にしている。 実際毎月何らかの要望が出て、改善を図っている。	運営に関する意見については、通常の会議の後で職員だけの会議を行い、検討する機会を設け、そのアウトプットについて良いものは取上げるようにしている。都度の意見書を職員側から出せる様にしている。企画提案の制度も生きており、賞品を提供して職員からのアイデアを募る取り組みをしている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自由な意見交換や要望書等でやりがいを見つけてもらっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に状況の把握に努めていて、必要に応じて研修等でスキルアップしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神奈川県内の同業との会議を2ヶ月に1回行っており、問題の改善や情報交換・相互研修などを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設ならではの考えに、業務中心というのがあります。 当ホームでは利用者中心という考えの中で、自然で何でも言い合える関係作りを実践しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談より、本音で言い合える関係作りを実践し、常に情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族から情報を集め、話し合いに十分な時間を掛けてケアプランを立てている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者・職員は当ホームにいる時は一つの家族という考えで行動を取る様にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	極力利用者と家族が交流出来る様に支援し、利用者にとって何が必要かをご家族と共に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者とは日常会話の中で情報を収集し必要に応じて馴染みの場所や人の所へ行ける様に支援している。	手紙を書いてももらったり、ご家族と一緒に会ってもらったりする等、お友達の間を維持するよう支援している。利用者が毎日の散歩で近所の同じ人と会い、知人となっている。毎日同行の変わる職員以上に、近所の人のお付き合いがあり、職員が知らない知人を利用者の方が持っていたりする。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がきっかけを作る事で、自然に利用者同士が関われる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお互いが行き来出来る様にしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者から話を聞いた上で、最善の方法を検討し実践している。	日常の会話の中で本人の本音を知るようにしている。何百回もの話の中で「ポツ」と本音をもらすことを見逃さないように努めている。その人を知ることは、つまり、その人とどれだけ真剣に向き合っているか、であると考えている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取り、入居後の会話で情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングで情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のミーティングや家族等との情報交換を基に月1回の会議で検討しケアプランに反映している。	日常のモニタリングを生活活動の中で個人別に実施し、毎日のミーティングや家族等との情報交換を基に月1回の会議で検討しケアプランに反映している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や引継ぎ書に記入し、毎朝のミーティングで共有・実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の日々の変化に敏感に反応出来るよう全員同じ意識を持って対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが自らの力を最大限使って生活出来る様に地域の協力を得ながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族のニーズに合わせた対応をとっている。	利用者や家族のニーズに合わせた対応をとっている。医療連携はとっていない。医院は車で15分位のところへ通院している。通院途中での職員との会話、病院での患者同士の会話などに生活があり、大切にしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	問題点や疑問は窓口を一本化して間違いの無い様に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院イコール寝たきりにならない様に病院側と密に連絡を取り合い早期に退院できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的にグループホームとは自立した方が生活する場所であるが、状況に応じて柔軟に対応出来る様に会議での話し合いを設けている。	基本的にグループホームとは自立した方が生活する場所であるが、状況に応じて柔軟に対応出来る様に会議での話し合いを設けている。ケアの方針を寝たきりにさせないケアに置き、重度の方でも出来る限りの自立の支援を続けている。この方針でケアを継続し、その先の終末期の過ごし方は、状況に応じて対応する心構えで支援に取り組んでいる。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを用意し、必要に応じて訓練を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回避難訓練を行い、地域に協力して貰える様に関係を築いている。	2ヶ月に1回避難訓練を行い、地域に協力して貰える様に関係を築いている。最低限の備蓄(水、食糧、お酒)は備えている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には徹底した教育を行っている	職場会議などで、常々言及し、職員には徹底した教育を行っている。入居者を人生の先輩として敬い、家庭的な雰囲気の中にも誇りやプライバシーを損ねることの無い言葉遣いと態度に心がけ、日々の支援がされている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が考え行動出来る様にサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	やってあげる事よりも見守りの大事さを常に職員に実践させるように指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に合わせた対応や、職員から利用者へ提案をしながら対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事作りや片付けを職員と共に行っている。	このグループホームは、食事は自主メニューで利用者と一緒にやることを今でも実践している。炊で作ったものや近所のもらいものも食材として活用している。前の炊や、津久井にあるぼっかぼかの炊も職員と利用者が一緒に作り、収穫している。苗は職員が提供している。自分達でメニューを決める日を月2回位設定し、余暇を見つけて一緒に買い物に行っている。月一回の外出（回転すしなど）も実施している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況に応じて柔軟に対応出来る様な体制作りをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアや訪問歯科を取り入れて実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	極力オムツや尿取りパッドを使わないで済む様に自立を促している。	排泄の支援は尿意・便意の認識があるうちは工夫して自立で行わせる工夫が大切と考えている。極力オムツや尿取りパッドを使わないで済む様に自立を促している。ほとんど一人で出来る体制にあり、大半の方が布パン又は布パン+パッドで対応し、汚したら代えれば良いと考え、推進している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師との連携により、利用者に応じた対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の状況に合わせて柔軟に対応出来る体制作りをしている。	基本的に毎日、全員に入浴して頂くようにしている。時間的には15:00~18:00の間を入浴時間としている。習慣になると毎日入浴することに拒否はない。拒否には理由があるので、理由が解消すれば入浴することに支障は起きないと考えて支援している。利用者の状況に合わせて柔軟に対応出来る体制作りが出来ている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的な生活リズムを維持出来る様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が利用者全員を把握出来る様なシステムを作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常に会話をもって利用者の希望にあった支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や担当職員との交流で1日外出日を用意している。	散歩は毎日欠かさず行っている。また、担当職員との交流で1日外出日を用意している。外出は車で出かけることが多く、計画的ではなく、その時の盛り上げで行ったりしている。外出デーも決めて車で出かけている。月に一回は外食にも行き、外食の代わりにホームで食事会を行うこともある。懐石料理のお弁当を頼むこともあり、利用者が楽しめる支援に努めている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況により買物等をお願いし、職員は見守りやサポートをしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者のニーズに合わせた対応をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に掃除を行い、常に居心地の良いホーム作りをしている。	シンプルな飾付けに努め、季節に応じたX'masの飾付け等を行っている。つるし雛のようなものも作って掛けている。作品を作る過程を楽しみ、出来上がった作品を飾る等している。また、利用者と共に掃除を行い、常に居心地の良いホーム作りに努めている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が自由に行動出来る様な環境を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持って来て頂き、あくまでも自分の家として生活出来る様にしている。	居室は、入居時に本人がこれまで使い慣れたものを持って来て頂き、あくまでも自分の家として生活出来る様に配慮している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に職員はサポートにまわり、利用者が自ら行動出来る様にしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム
ぽっかぽか

作成日

平成23年12月13日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	新人職員のノウハウ不足	会議や勉強会のほか、研修期間を用意し、ベテラン職員と共に実践での経験を積んでもらう。	毎月1回の会議や勉強会、入社後2週間の研修を行う。	職員として独り立ち出来るまでに2週間。

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。